

『大阪、ミナミの高校生2』

作…オノマリコと精華高校演劇部

『大阪、ミナミの高校生2』について

『大阪、ミナミの高校生』は、精華高校演劇部と劇作家のオノマリコとの交流のなかで作られた作品のシリーズです。

今回の台本は『椿姫』を原型にしています。十九世紀半ば、パリの裏社交界の高級娼婦マルグリットと彼女を愛した青年アルマンの物語。アルマンの愛情に打たれたマルグリットは娼婦を辞め、二人でつつましく暮らすようになります。しかしある日、アルマンの父親がマルグリットを訪ねてきて「二人の愛が本物だろうと一度道を踏み外した女を世間は許さない。」と息子と別れるよう説得します。マルグリットはアルマンのことを思い、二人の小さな家から出て行くのでした。この話はオペラ『ラ・トラヴィアータ』となり、世界中で上演されています。特に一幕の「乾杯の歌」は人気のアリアです。

高校生をめぐる状況は、ごく一部の場所ではこの『椿姫』と似ています。台本に書くことはやめました。日本には、十代の少女少女から性を買う大人が多数います。性を売った少女少女たちは、性体験の経験だけ増えても、人と愛し合った経験は他の十代と変わらず少なく、それ故に心のバランスが取れていなかったりもします。

人を愛したり人に愛された経験は、自分自身がここにいることを祝福してもらえるものだと思えます。日本は「モテない」人にきびしい社会だから、「恋愛をしよう」というと暴力的に聞こえてしまう人も多いけれど、それでもやっぱり若い人たちには、試行錯誤しながらも、誰かを愛して愛されてほしい。

この作品をつくるにあたって、精華高校演劇部の一人一人に「恋とはどんなものだと思うか」というインタビューを行いました。そして『椿姫』の父親のシーン、また三谷幸喜さんの『笑の大学』の構成を取り入れて、嘘も本当もませこぜに肉付けをしていきました。

今回のこの台本は二〇一八年三月七日の通し稽古の内容を元に、書き起こしたものです。厳密な意味ではこれは台本ではありません。また実際の上演もこの本とは少しがうものになるはずですが、この作品の記録として書き留めておきたいと思います。この記録が、彼らの存在を思い起こす媒介になることができたら幸いです。オノマリコ

【登場人物】

マリー
高校二年生。

トム
高校二年生。マリーのクラスメイト。

先生
マリーとトムの担任。数学教師。

風紀委員 A
「恋とはなにか」というモノログを作ったとき、恋にネガティブだった人を配役

風紀委員 B
同じくネガティブだった人を配役

風紀委員 C
同じくネガティブだった人を配役

恋する人 D
「恋とはなにか」というモノログを作ったとき、恋にポジティブだった人を配役

恋する人 E
同じくポジティブだった人を配役

恋する人 F
同じくポジティブだった人を配役

上演前。トム役のモノローグ。

（上演時、トム役の男性が自分で考えたモノローグです。自分なりに「恋とはなにか」を考え、作りかえて見てください。）

トム

本日は『大阪、ミナミの高校生2』にご来場いただき、誠にありがとうございます。さて、今からちよつと劇のテーマについてお話しします。今回の劇のテーマなんですけど、なんと、「恋」なんです。皆さん、恋、してますか？

僕にとつて、「恋」とか「恋愛」っていらんもんなんです。いらんもんやって付き合うまではそう思ってたんです。でも実際自分が付き合っていると、なんていうんですかね？自分が思ってたよりも、意味があるものなんだ。意味があるもんってのは、最初は気づかなくて、最近気づいたんですけど、自分はその人と一緒にいることで、一緒にいるだけで、安心してらんだと思いました。それは多分その人と付き合うことで一緒にいる時間が多くなったりとか、大事な話や、絶対に普段では見せない表情を見たりとか、つまり、普通に接していてもわからないところを知って、その人のことをたくさん知って、信頼関係を築ける相手ができるだけで安心する場所ができるってことを、付き合ってから初めて、僕は知りました。

「恋」とか「恋愛」っていらんものやと思ってたけど、実はいるもんだったんだ。少なくとも、僕にとつてはいるもんやな。彼女に明日も会いたいと思うし、声を聞きたいと思う。彼女もいろいろあるんだろうけど、彼女にも僕が必要な人間であってほしい。

間もなく、開演いたします。上演時間は60分を予定しております。『大阪、ミナミの高校生2』最後までごゆっくりお楽しみください。

○シーン 1

暗転にはならない。

音楽・フォスター「Molly! do you love me?」

舞台には一つ、学校の机がある。舞台の両隅には「KEEP OUT」と書かれたエリアがある。恋する人D、登場し語りだす。

(上演時、恋する人D役の女性が自分で考えたモノログです。自分なりに「恋とはなにか」を考え、作りかえて見てください。)

D 率直に言って、恋ってすごくええもんやと思うんです。恋をしている人、まじ尊敬します。

風紀委員C、「KEEP OUT」エリアを突っ切って登場する。

風紀委員C、恋する人Dを見つめる。

D 恋したら人はかわれるし、恋したら見てる風景もかわる。それを考えたら、恋ってめっちゃいいもんやねんなって思いました。

風紀委員C、恋する人Dに手を差し出す。恋する人Dはその手をとらずに話し続ける。

D わたしけっこう、妄想するんです。妄想で創作キャラをつくって、ストーリー考えたらります。妄想で恋愛のストーリーを考えると、すごいキャラがきらきらしてるんですね。恋をするって

宝石みたいにきらきらしてるもんやねんなーと思いました。

風紀委員C、恋する人Dに目隠しして「だーれだ」をしようとする。

恋する人D、それをかわして、風紀委員Cに目隠しをする。

だーれだ

D先輩

(Cを背中をから押す。)

(転びつつ) ええ？

恋する人D、風紀委員Cから離れる。

中学のときはなんも思わなかった。二次元だいすきyeah!みたいな。三次元はいらんみたいな。

恋する人D、話し続ける。

風紀委員Cは話を聞きながら、次第にDのスカートのなかを気にしだす。

D
高校入ってから、あっちこっちで彼氏できたとか、あつて。わたし、だれがつきあっているとかがほんまに気がつかないんですよ。「つきあつた人いまだどうなん？」って聞いて「いまちがう人やで」って言われて「そうやったん！」って。ほんまにぶくつて。(Cに) ジャージはいとるで。(スカ

C
トをあげて見せる)
うわっ

D
(気にせず) 高校三年生にもなると、彼氏いる人おおいです。彼氏ができると、女の子はどんどんかわいくなる。もともと顔わるいってわけではないですよ。そうじゃなくて、かわいくなるんです。あと、すぐに相手に気がつく。教室で、わたしが探しても「どこおんねん」って感じだけど、恋人同士だったら「ほらあそこ」って。いつでも「ほら」ってすぐ見つけられる。恋人になったらその相手中心に世界がまわってる。恋ってほんまにすごいな。

わたしも幼稚園のときに好きな人がおった。好きな人は、教室のどこにいてもすぐに見つけられた。ああそっかあ。恋をしたら、その相手が自分の道になるんや。相手にはわたしが道になってるんや。すごく、ロマンチック。

風紀委員C、恋する人Dの近くで、幸せそうに話を聞いている。

D
わたしも、いつか、わたしの道になる人とめぐりあいたいなあって思います。その人と好きなことしたり、子どもつくったり、したいです。やだー。

恋する人D、風紀委員Cをひっぱたいて退場。

風紀委員Cがおののいていると、そこへ風紀委員ABが登場する。

風紀委員Cは佇まいを直す。これ以降、風紀委員として活動する。

風紀委員たち、トム、恋する人E、恋する人Fを引っばってきて、「KEEP OUT」エリアへ押し込

む。

○シーン2

十二月二十五日。午後四時。生徒指導室。

マリイが先生に、反省文を見せている。

マリイ 三枚も書いたんですよ

先生 (原稿用紙を見ながら) うーん

マリイ 昨日の夜、あ、書かんとあかんやーって思い出して、そつからバーツて。でもでも、字はきれいじゃないとあかんって思ったから、丁寧に、ていねーいに書いたんですよ。字、きれいじゃないですか？

先生 (読み終わり、文章中の表現を数えながら) 教わったことないと思うから言っておくけど、原稿用紙つちゆうのは、一マスに一文字入るように書くんや

マリイ そうなってますん？

先生 マスがあることを無視しとる、これは

マリイ ……

先生 反省の「省」っていう字は「少ない」って書いて、その下に「目」

マリイ 知ってますよお！

先生 「目」やなくて「日」になつとる。横棒が一本少ない

マリ― (原稿用紙を見て) 「少ない」の下にあるからなくなったんじゃないですかね

先生 なに言ってるんねん

マリ― (明るく) ごめんなさい

先生 これ、書き直しな

マリ― 全部横棒を一本足して、「目」にしたらいんですか

先生 省エネしない。書き直し。全部一から

マリ― えー

先生 「わたしは悪いことをしました。ごめんなさい。反省しています。」先生は数えましたよ。君はこれを四十二回繰り返してる。同じ文章を四十二回！正直に言ってほしい。君は僕をなめてんの？それとも反省文をなめてんの？あ？

マリ― ……滅相もない

先生 じゃあ、まさかこれでいいって思ってるのか

マリ― ダメですか……

先生 高校二年生ならもうちよつとしっかりしてくれよ。(紙を裏返して) 落書きしとるし

マリ― 飽きちゃって

先生 このキャラクターなんやねん。モンキー☆って

マリ― 犬です

先生 猿やろ。モンキーは猿。猿やろうが。だから変やねん。なんでここ(頭の上)に耳があるやつがモンキー☆なんや

マリ― そこ重要ですか？

先生 重要やないな。まるつきり今日のこの会話には重要やないけど、君がこれから社会生活を送っていいには重要や。犬は DOG！ 猿は MONKY！

マリー 猫は CAT！

先生 もう帰りたいわ

気まずい沈黙が流れる。

先生 マリーさん（わざと他人行儀に）

マリー はい

先生 ぼくはいまからあなたに反省文の書き方を教えます。例えばお酒を飲んだときの反省文ですがマリー あたし、お酒飲んでないです

先生 例えば。例えばです。例えばあなたがお酒を飲んで、先生の誰かに見つかったとしましょう。あなたはどんな反省文を書きますか

マリー ハタチになつてないのにお酒を飲みました。ごめんなさい。反省しています

先生 うん。大体いいです。ええやん。この作文よりだいぶええ

マリー はあ

先生 マリーさん、あなたはなんでお酒を飲んだんですか

マリー えー。なんでやろ……

先生 知り合いに飲んでる奴いるやろ。そいつにすすめられたとか

マリー ポールにすすめられたからです

先生 そうやな。ポールは飲んでんな。どうしてその時断らなかつたんですか？

マリ― 場の、ふいんき？

先生 雰囲気な。で、あなたは反省してますか？

マリ― 先生、あたしお酒飲んでないです

先生 例えбаです。体育祭の打ち上げとかで、例えばポールにすすめられて君がお酒を飲んでしまったとしたら。それが先生たちに見つかって怒られたとしたら

マリ― 反省していますすつて言います

先生 「つて言います」？

マリ― 反省しています！

先生 もしまたポールにすすめられることがあつたら？

マリ― 断ります！

先生 総合すると反省文はこうなります。「わたしは法律で禁止されているにもかかわらず、お酒を飲んでしまいました。周囲の雰囲気の流れされて、いけないとわかっていても断ることができませんでした。深く反省しています。今後はいけないことはいけないと断れるように、自分を厳しく見つめ直します。」

マリ― すげえ

先生 すごない。反省文つちゆうのはこんな風を書いてきてもらいたいですよ、マリ―さん。「どうしてやってしまったのか」と、「これからどうするのか」をね

マリ― そうなんですな！

先生 そうなんですよ

マリー あたし、書き直します

マリー、机の前に膝をついて、反省文を書き直しはじめる。
先生、ぐったりと椅子に背中をもたれさせる。

先生 あ、椅子つかうか？

マリー いいです。この方が高さあうし

先生 そつか……

先生、手持ち無沙汰で立ち上がる。

先生 バイトは

マリー え？

先生 バイトの時間。そろそろやなかったっけ

マリー わたし、バイトしてないです

先生 そうやったっけ

マリー みんなやってますけどね。でもあたしの家のまわりって、バイトできそうなどこ、ロッテリアから
いしかないんですよ。で、そこは募集してないし

先生 そつか。(字を見て) またはみ出してる？

マリー できました

先生 え

マリ― (読み出す) 「反省文。わたしは昨日、その場のふいんきに流されて、トムと教室でセックスをしてしまいました。」

転換。

○シーン3

風紀委員たち、恋する人Fを「KEEP OUT」のエリアから出す。恋する人F、初めは周りを気にするように恋に対してネガティブに、だんだんとポジティブに語りだす。

(上演時、恋する人F役の女性が自分で考えたモノログです。自分なりに「恋とはなにか」を考え、作りかえて見てください。)

F ○○高校演劇部◇◇です。わたしは、恋とか恋愛は汚らわしいって思っています。恋は自分勝手すぎるし自己本位のものだし、あと恋とか恋愛の中には、性的欲求とか性的感情があって、それが嫌です。

でもいま、恋してるんですよ!! 演劇で知り合った方で、わたしが中二のときに初めてあって、演劇のこととかいろいろ教えてくださって、かっこいいなあって思ったんです。それから、わた

しが高校一年生になって、その好きな人と一緒にお芝居をすることができまして。もう、その時ほんまに好きになって。

それで〇〇高校演劇部の△△先輩が協力してくださって、好きな人と、△△先輩と、私で、ご飯に行っただけです。お好み焼きやさん！もうもう凄かったです。あんなに美味しかったお好み焼きはないし、あんなに食べるのに緊張したお好み焼きはありません。幸せでした。田中先輩、本当にありがとうございます！

ご飯に行っただけで、それから全然進展ないです。アピールも全然できなくて。好きな人は三つ年上の人で、いま大学生なんです。わたしは背もちっさいし、高校生やし。なんか最近、病院行ったら、受付の人に、小学生ですか？中学生ですか？って聞かれたし。いろいろ悩んでます。いちばん悩まされているのは、始めに言った、恋とか恋愛とか汚らわしいって思うことについてです。

たまに恋とか恋愛を自分から遮断したくなります。性的な感情とか欲求は、人間として当たり前なこと、健全やと言えりし、無い方が不健全なのかもしれません。でもなんかすごい嫌になって、コンビニに置いてあるエロ本とかビリビリにしたくなったり、まず自分が女であること、性別をもっていることが、嫌になります。痴漢も痴漢冤罪も女性専用車両とかも無くなって欲しい。女性にも男性にもなりたくないって時があります。

でも、めっちゃあの人が好きです。ここで話しちゃうくらい好きです。客席のどっかにおらんかな？って思うくらい好きです。恋をしたからこそ得ることができる感情を知って、幸せだったし、もつと知りたいし味わいたいと思うけど、やっぱり恋とか恋愛は怖いし気持ち悪いとも思いません。恋愛をして得る幸せもあるし、恋愛をしなくて得る幸せもあると思います。いや、ありま

す。恋愛してもしなくてもどっちも幸せなので、悩んだり葛藤したりするのは、苦しいけど楽しいです。みなさんに、恋がどうなったかおつたえでできるようになればいいと思いますし、やっぱりあの人に、好きって伝えられればいいなと思います。

アラート音がする。恋する人F、風紀委員たちによって「KEEP OUT」エリアへと追いやられる。

○ シーン4

十二月二十六日。午後四時。生徒指導室。

マリー、先生に向けて、新しく書いた反省文を読んでいる。

マリー 「十二月二十四日朝六時、わたしたちは教室でピーー！をしました。それが先生に見つかって、わたしたちはとても怒られました。でも、しかたないんです。わたしは知らなかったんです。教室でピーー！をしてはいけないうんて。トムもです。トムも知らなかったんです。だからわたしたちは教室でピーー！をしました。いたしました。『教室でピーー！をしてはいけません』このことはイマイチ知られてないように思います。もつとyoutubeとか、CMとか、有名人に言ってもらったりして、学生ならだれでも知っているようにしたらいいと思います。」

マリー、読み終わり、先生を見る。

先生 ……

マリ― あたし、すっごい考えたんですよ

先生 ……聞こうか

マリ― お酒はハタチからって、みんな知ってるじゃないですか。タバコも。だからお酒飲んだり、タバコ吸った人たち、停学になってるじゃないですか。でもピーー！は

先生 ピー―

マリ― ピー―！は知らないじゃないですか。学生手帳を読んだんですよ。校則が書いてあるから。でも校則に、ピー―！禁止って書いてなかったです。

先生 不純異性交遊

マリ― 呪文？

先生 ふじゅんいせいこうゆう。禁止って書いてなかったか

マリ― ちよつと何言ってるかわかんないです

先生 「サンドイッチマン」の富澤か

マリ― ……？

先生 マリ―さん、いまから僕は当たり前前のことを言います。教室は勉強をする場所であって、セックスをする場所やない

マリ― それ。言ったらあかんって

先生 勉強だけをする場所やないけど。将来のことを考えたり、友だちをつくったり。恋人ができてもらええ。ただ教室でセックスをしないってことは一般常識や。一般常識やる？ ちよつとでも思わへん

かったんか。やつちやあかんことやろうなつて

マリィ ……ピーー!

先生 ふざけんのも大概にせえ!

マリィ ……

先生 思わへんかったか。教室ではやったらあかんことやつて

マリィ …… (顔を背ける)

先生 ……ほら

マリィ ……

先生 それが正しい。ちゃんと反省せえ。言っておくけど、他の先生方に反省してるってみなされんと、退学になつてもおかしいんや

マリィ 退学?

先生 反省していて、もう二度とせえへんと誓えれば、一発アウトはないから

マリィ 退学……

先生 君らが校内で所構わずそういうことをしたり、そのことばかり考えるようになったら困るんや。猿やないんだから

マリィ 猿?

先生 所構わずまぐわつて。猿やろ

マリィ 猿つて、そうなんですか

先生 らしいで

マリィ イメージちゃうわ。もう落書きできないです、モンキー

先生　そもそも落書きすんなや

先生、マリイから反省文を受け取るため手を出す。

マリイ　……（動かない）

先生　反省文、一応もらっておく。まあ、書き直しやけどな

マリイ　……

先生　あ。猿はモンキーだとは、わかったんか。えらいえらい

マリイ　間違ったこと書いてない

先生　え？

マリイ　あたし、間違ったこと書いてない

間。

先生　さつき否定しなかったやろ

マリイ　……

先生　いけないことだと思ったんよな

マリイ　どこにも書いてなかったし、言われたことない。誰もそんなこと知らないですよ

先生　知ってるわ。常識や

マリイ　あたしたちの常識って先生の常識とちがうんです。あたしたちは十七歳で、十七年しか生きてない

けど、先生はもつとみんな年寄りやから

先生
年上やから

マリ―
だから、あたしたちの常識を知らないんです。先生たちは

先生
……もしもここが葬式場だったら、君はここで、こないだトムとしたようなことを、するか？

マリ―
人がおらんかったらやっただと思えます

先生
お寺とか、教会やったら？

マリ―
ぜんぜんやりません。神社の境内でって話、聞いたことあるもん

先生
公園とか、友だちん家やったら？

マリ―
余裕です。みんなやっています

先生
猿やないか

マリ―
猿じゃないです！

間。

先生
知らないっていうなら今日教えとくな。学校は勉強をするところや。そこでセックスをするのはモラル違反や

マリ―
……また言った

先生
できるだけ友だちとか、同級生に伝えとけ

マリ―
先生が言った方がいいんじゃないですか

先生
ぼくの仕事は君らのクラス担任と、数学を足し算からわかりやすく教えることやねん。高校生に一

般常識を教えるのは別の人に任せたい

マリ― でもそれじゃあ、みんな知らないまんまやないですか

先生 そうやな

マリ― そんなの変やないですか

先生 そうかもな

マリ― あと先生、あたしには「セックス」って言うなって言ったのに、自分で何回も言ってる

先生 あー。……反省文に書かなきゃええねん。表立って言わないでもらえれば別にええ

マリ― ……

先生 十七歳には十七歳の常識ってものがあるんかもしれへんけど、こっちにも教師の常識っていうんがあるから

マリ― ……

先生 なんやねん、ピーー！って。おもしろすぎるわ

マリ― あたし、先生は「嫌いな先生」じゃないんですけど

先生 なに、突然

マリ― 先生、結構みんなのなかで評判がわかるんですよ。「怒らないから優しい、好き」って人と、「怒らないけどなんか怖い、嫌い」って人と

先生 へー

マリ― わたしは好きな方やから、だから先生の言うことわかりたいけど、でもぜんぜん、ストンって落ちひん

先生 （マリ―の台詞の途中で）お母さん、いつ来られるか決まった？

マリィ ……忙しいんです、母

先生 そっか

マリィ 母が来たら、どこまで話すんですか

先生 一通り全部

マリィ そうですよ

先生 トムのお父さんにもそうしたし

マリィ ですよ

先生 知られたくないかもしれないけど、そうは――

マリィ うちのママは、「あんた、そういうことはバレないようにやんなさいよ」って言います、きつと

先生 ……

マリィ ごめんなさい。口が、あれです、すべりました。仲いいんです、ママ、じゃない。母と

先生 トムの親御さんは、トムを怒ったで

マリィ へー

先生 クラスメイトのお嬢さんに申し訳ないとも言った。君のことな

マリィ 申し訳ない？

先生 トムのお父さんは真面目やし、わりとご年配やから、傷物にしたとでも思っとるんちゃうか

マリィ、笑う。

マリィ それ、嫌です

先生 ……

マリ― あたしに傷がついているとしても、トムのせいやないのに

先生 書き直せるか、反省文

マリ― 書かないと、退学ですか

先生 退学にはさせへん。やから書き直して、それからお母さんの仕事が休みの日を聞いてこい

マリ― わかりました

先生 俺も、君に傷はついてへんと思うよ

マリ― …… (笑う)

先生 なんだよ

マリ― あたし、やっぱり先生は「嫌いな先生」じゃないです

先生 はいはい。反省文。しっかり書き直してくるように

マリ― ……そうですね。あたし、がんばります

転換。

○シーン5

風紀委員C、語りだす。

(上演時、風紀委員C役の男性が自分で考えたモノログです。自分なりに「恋とはなにか」を考

え、作りかえて見てください。」

C

聞いてもらいたいことがあります。最近自分の周りで彼氏・彼女できる人が多くて正直困ってます。高校生って三年間しかないじゃないですか。高校入ってから一人も彼女できなくて、高校生ってすぐできるもんやと思ってたんですよ、でも現実には残酷で二年が経ちました。タイムリミットはあと一年です。

話は変わるんですが昔から僕は嫌いな言葉があります。「はいー二人組つくってー」先生の悪意のない暴言！マジで！おるわけないやろ！クラスでぼっちなめんな！それを考えると自分は昔からパートナーとか作るのが苦手なんかなって。高校では親友もできなくて、で！考えたんですよ。もしもパートナー的人人ができたら。

ショートコント、パートナー！

「今日どこで遊ぶ？」

「ユニバ行かん？」

「ありあり！」

しばらくして

「ユニバ来たけど、どうする？」

「ちよ、エルモとクッキーモンスターのカチューシャ買ってさ、プリクラ撮れへん!？」

「それでペア画!？」

「あり!!！」

まあ、これはやりすぎなんですけど。ライブチケット二枚あるけど一緒に行かん？ 的な。恋人とか贅沢は言いません、今は男でも女でもいいので一緒にいてくれる人が欲しいです。

恋する人D、風紀委員Cの近くに現れる。

C
あの、よかったら、ライブ今度行きませんか？

風紀委員C、恋する人Dが頷くまで話しかけ続ける。恋する人Dが頷くと、アラート音が鳴る。

風紀委員A・B、風紀委員Cと恋する人Dを捕まえようとする。

風紀委員Cは捕まるが、恋する人Dは風紀委員たちから逃げる。

風紀委員Cを「KEEP OUT」エリアに収納したのち、風紀委員A、語りだす。

（上演時、風紀委員A役の男性が自分で考えたモノログです。自分なりに「恋とはなにか」を考え、作りかえて見てください。）

A
恋は神出鬼没。いつ、何処で、誰が、どのような状況で起きるか分からない、そういうものだと思います。自分は「恋」と「運命の人」というのは、似たような存在だと考えてます。運命の人も神出鬼没で、いつ、何処で誰が会おうか分からないからです。「恋や運命の人は神出鬼没」と考えると、なんだか怖く感じます。自分は自己肯定感が極端に低く、物凄くネガティブでシャイでいつも失敗することを考えてしまう人なのでいつ起こるか分からないというのに恐怖を感じています。もしも恋をしたり、運命の人に出会った時に大きなミスを犯してしまうのではないかと

いう事を危惧しています。また、自己肯定感が低いと、駄目な恋愛を繰り返すことがあるようです。

芸能人の恋についても、自分は怖く感じています。芸能人が付き合ってたとか、恋をしていたとか、マスコミで報道されたりするのですが、これに対して、納得することが出来ません。だって、もしも報道された側の人だったら、もうこれ以上恋なんて出来ないんじゃないかって、凄く可哀想に思います。芸能人にだってプライベートは秘密にしておきたいもんなんです。別に恋をしてはいけないものとは全く思っていないません。幾らでもしていいんです。ただあまり他人には知られたくない、そういうものだと、自分は思います。

○シーン6

十二月二十七日。午後四時。

生徒指導室。先生は原稿用紙を読んでいる。

マリイは先生から少し離れて座っている。

マリイ あたし、賢くなつたと思いませんか？

先生 なんで

マリイ 毎日すごく考えてるんですよ。自分のこととか、友だちのこととか、いままでのこととか、いろいろ。テストしてみません。きつと、賢くなってるんで

先生 ○○＋△は？（計算問題を出す）

マリ― ○○+△……○○○○！（答えを言う）

先生 君、計算しないで勘で答えとるやろ

マリ― 数学はやめてくださいよー

先生 いまのは算数やけどな

マリ― 先生ってどうして先生になったんですか

先生 なに、突然

マリ― 先生って大変じゃないですか。授業を教えて、部活も見て、さらに、あたしみたいなのに反省文書かさないといけないし。……あ、学校が好き？

先生 ……君は、虚数ってわかる？

マリ― 虚数？

先生 「いってやろ」

マリ― （わかったかのように）ああ、名前だけ

先生 *imaginary number* の頭文字。二乗するとマイナス1になる数字。つまり「マイナス1

マリ― ちよつとなに言ってるのかわかんないです

先生 じゃあゼロとかマイナスってわかる？

マリ― バカにしないでください。そのくらいわかります

先生 ……。ゼロやマイナスや虚数っていうのは昔は存在せえへんって思われとった。世界は目に見えるもん、ひとつひとつ数えられるもんでできてるんやから、ゼロとか、マイナスとか、「マイナス1なんて考えても現実の役に立ちはないって

マリ― その通りじゃないですか

先生　でも、ゼロもマイナスも虚数も、見えないだけで、この世にないわけやない
マリ―　？

先生　例えば、うちのクラスは三十六人でいつも二人教室に来ん。それは実数では三十四人だけど、マイナス二人って考えていた方が、感覚としては合う。実際、空いている机が二個あるわけやからな。わかる？

マリ―　わかります

先生　だからうちのクラスはいつもマイナス二。そこからだれかが休んだらマイナス三、四、五とマイナスが増加していく

マリ―　でもそれって、実際に教室におけるのは三十四人ですよ

先生　うん。それで実際に「おらん」のが二人や

マリ―　こんがらがってきました

先生　あの二人が教室にきたら「おらん」のはゼロになる。まあ、学校には来とるからどっちでもええけど

マリ―　学校おったんですか？ あの人たち

先生　保健室登校中。虚数はもうちょっと説明が難しくくて、見えにくい。（ホワイトボードに向かって）ここがゼロで、1、2、3。逆にいつてマイナス1、2、3。これが中学までの数の世界。直線上に数が並んでいる。わかるか？ i はこの線上にはない。この線のこっち（上部）やこっち（下部）に隠れている

マリ―　（いい加減に聞いている）はあ

先生　 $1 \times \text{マイナス} 1$ は？

マリイ え？ …… マイナス1？

先生 そう。 $2 \times$ マイナス1は？

マリイ マイナス2

先生 昔、えらい人は考えた。このマイナス1をかけるっちゅうのは、0を中心に180度回転させることでも表せるんじゃないかと。(1からマイナス1にかけて、半円を描く) ここで、 i は二乗するとマイナス1になるってことを思い出してほしい。かけるマイナス1ちゅうのは、 $\times i \times i$ と同じや。180度回転することは、 i を2回かけることに等しい。ほな90度の回転は、どうなる？

マリイ ……

先生 90度回転が2回で、180度

マリイ えー… $\times i$ ？

先生 そう。 $1 \times i \parallel i$ (90度回転した場所に書く) $2 \times i \parallel 2i$ 。直線上の実数に対して、虚数はこういう場所に存在しとる。 i は、数の世界は実数だけやなくて、もっと広がりのあるもんやっつて教えてくれる。ぼくは数学が好きなんよ。とても複雑やけど、美しいし。目に見えるものや、数の多さにとらわれない価値観を教えてくれる

マリイ ふーん

先生 だから、教師になったらずっとこれをやってられるなあと

マリイ 魔法みたいでした

先生 これ？

マリイ うん。よくわかんなかったけど。先生はこれをやりたいのかあ

先生 これだけが数学やないけどな

マリ― 先生になって、よかったですね

先生 よくねえわ。ここにきて、まともに数学を教えた日なんてないし。小学校からつまずいているやつばかり。生徒の生活指導の反省文なんてもので見ないとあかんし

マリ― 御愁傷様です

先生 ……全然だめや

先生、持っている作文用紙に赤字で線をひく。

マリ― うそ！

先生 あ、これクラスの、中島の推薦のための小論文

マリ― え

先生 君のことばっかやってるわけちゃうから

マリ― ……

先生 (赤字を書き入れながら) もつとアピールできることあるやろうが

マリ― 中島くん、どこ受けるんですか

先生 東洋食品工業短期大学っていう、缶詰をつくる短大

マリ― へー

先生 学費は安いし、就職率100%やし、寮もあるし。親の世話にならずにすぐに働きたいっていう中島には向いてるんやけど、一学年五十人くらいしか取らない大学やから、狭き門で

マリ― へー

先生　と、いうように、ぼくは大変なんですよ。一クラス三十六人みろなんて、なめてんのかって思うわ

先生、マリーの反省文を読み出す。

先生　字、はみ出さなくなったやん

マリー　ああ。ありがとうございます

先生　……

マリー　去年辞めた、ローラとマークはマイナス2ですか

先生　……

マリー　ローラって、妊娠してたんですよね

先生　……

マリー　二人して辞めたからそうじゃないかって、みんな

先生　妊娠しても退学にはならへん

マリー　ならないんですか？

先生　自主退学をすすめはするけど

マリー　それ退学じゃないですか

先生　お腹の子どもになんかあっても、ぼくたちは責任とれへんからな

マリー　冷たい

先生　冷たくない。見てないところでなんかあつて流産して、それを学校の監督不足とか言われても困る

んや

マリ― でも。自分の生徒やったら、おめでとう！くらいいってもいいじゃないですか

先生 はあ？ それまた別の話やろ。……いやいや。ぼくは生徒の妊娠は嫌や。君もそういうのは卒業してからにせえよ

マリ― トムは優しいんで大丈夫です

先生 優しいんで大丈夫？

マリ― (照れて) 避妊、とか？

先生 ああ、そう

マリ― はい (嬉しそう)

先生 避妊をしっかりとってくれると

マリ― へへ

先生 それは結構なことぞ

マリ― はい (照れくさそう)

先生 ……ローラとマークはマイナス2やない

マリ― ……

先生 あいつらは君らと一緒に。放課後、部室でセックスしとった

マリ― え……

先生 後輩からたれ込みがあった。常習犯だったから。三者面談して、退学

マリ― ……ははは (ひからびた笑い)

先生 あいつらは、そうね、存在にゼロをかけてゼロになったって考えとくか

マリ― ……

先生 (反省文をまとめて置いて) だいたい、いいんやないかな

マリー、沈黙。

先生 真面目に書いてあるし。裏に猿の落書きもない

マリー ……

先生 お母さんも、年明けなら来られるんやな

マリー ……あ、はい

先生 これなら他の先生にも見せられるわ。いくつか、漢字とか直すところ、赤字で書いとくから、清書してくれ。お疲れさん

マリー、先生が読んでいる反省文を取り上げようとする。

先生、マリーの腕をつかんでそれを阻む。

先生 なに

マリー ……

先生 なにするんや

マリー ……先生

先生 なんやねん

マリー これ、返してください。じゃないと、あたし帰れません、先生

先生　　なんで

マリ―　書き直させてください

先生　　……君ねえ

マリ―　嘘やから

先生　　は？

マリ―　そこに書いてあるのは全部嘘やから、返してください

先生　　………（手を離す）

マリ―　あたしも初めは悪いことをしたと思ってたんです

先生　　いい加減にしてくれよ

マリ―　でも先生の話聞いてたら、なんか、悪いことをしてないんじゃないかってだんだん思ってきて

先生　　なんで

マリ―　愛し合いたいって思うじゃないですか

先生　　時と場合によるやろ

マリ―　校則に、書いてなかったじゃないですか

先生　　校則に書かなくていいくらい当たり前のことなんや

マリ―　……

先生　　反省すればええんや。もう二度とやったらあかんことやってわかってくれたらええ。そのための反省文や。君は深く反省している。もう二度と、教室でセックスをすることはない。妊娠のリスクやっつて、性病のリスクやっつてある。まあ、トムは避妊してるらしいけど。わかったな？ 自分の行動を見直して、「深く反省しています」って、それを書けばええんや

マリ― 書きたない

先生 ……あのなあ

マリ― 教室でしたらあかんなんて、どこにも書いてない

先生 放火はしたらあかんとか、殺人はしたらあかんとか、校則に書いてあるか？ 教室は勉強する場にさせてくれよ。ぼくはもつと、ここで普通に授業をしたいねん

マリ― でも、先生の言うこともわかるけど

先生 トムは書いたぞ

マリ― ……

先生 トムは次の日に、反省文を書いて持ってきた。深く反省している、もう二度としないと書いてあった

マリ― やだ

先生 先生の方が嫌や

マリ― 先生は冷たい！

先生 はあ？

マリ― わかってくれてもいいじゃないですか。あたしたちが、どうやって、どんな気持ちで毎日生きてるかってことをもつと

先生 どうしてそんな風に、三年間しかつきあわん君らのことを愛さなあかんねん！

沈黙。

先生 ……初めは、「ごめんなさい」って四十二回書いてきたやないか

マリ― あたし、賢くなつたと思つたけど、あほになつたのかもしれません

先生 このまま提出しよう。直すなら、漢字はもうええ。一カ所だけ。「ピーー！」が残つとるから。他の

言い方を考えてくれ。「校内であるまじき行為」とかに

マリ― ……

先生 漢字、わかんないかもしれなから書いとくな

先生、手元のメモに「校内であるまじき行為」と書く。

マリ―に紙を渡すが受け取らない。

先生、マリ―の鞆を手取る。

先生 バイトはしてないんやな

マリ― ……してません

先生 そうやんな

マリ― してたら

先生 え

マリ― バイトしてたら、何なんですか

先生 いや

マリ― ……言つてください

先生 深夜に、君に似た子を見たつて先生がいて

マリィ ……

先生 …… キャバクラか、ガールズバーか。とにかく水商売のキャッチで

マリィ ……

先生 君まだ十七歳やろ。たとえ十八になつても一発アウトやから

マリィ ……

先生 ここは否定するところやろ

マリィ ……

先生 俺は、嘘つてある程度ついていいもんやと思うよ

マリィ ……

マリィ、鞆をあける。鞆から、赤いドレスが出てくる。

マリィはそれを、先生に投げつける。

○シーン7

音楽。「Jeannie With The Light Brown Hair」

風紀委員B、語りだす。

（上演時、大阪で起きた事件からオノマが考えたモノログです。上演するときの世情に合わせて、新しいふさわしい事件があればそれに代えてもいいですし、架空の話を考えてもいいと思います。

作りかえてください。)

B わたしの友だちの話をお願いします。友だちだと思っているのはわたしだけで、あの子にとってはわたしはなんでもないかもしれません。

C マリーを見いひんかった？

B 見いひんかった。わたしの友だちは、わたしと同年です。小学校が一緒に、小学校のときは仲が良かったです。中学生になってから、彼女はほとんど学校に来なくなりました。噂で、子どもを流産したと聞きました。中学の卒業式の日、彼女は来ていました。声をかけたら、久しぶりと笑っていました。通信制の高校に入るんだと言っていました。

F マリーを見んかった？

B 見いひんかった。去年の春、中学の同級生たちの間で彼女のことを話題になりました。彼女はネット上で「とある俳優と関係を持った」子じゃないかと言われていました。Google で彼女の名前で検索すると、たくさん写真があがっていました。「だれこの美人。あの子じゃないやん」
整形したんや

B E そっか。……わたしは、彼女に電話しました。もしもし

十七歳の女性が登場する。(恋する人Dが演じる)

(D) ○○ちゃん？(Bの本名)

B B そうそう。○○○○。元気？

(D) うん。わりかし。ねえ○○ちゃん、家の場所って変わってへん？ 行ってもええ？

B え？

(D) 住むとこなくてさ。ネカフェおんねん

B ……なんで？

(D) うちにいると、変な人たちが来るの。いまさ、ボーナスが入ってさ、手元に一五〇万あるからなんとかなつとるけど、でもこんな生活やと、これもすぐになくなつちやうからさ

B ……うちは無理やで。うち、狭いし。お母さん知らん人いやがるし

(D) そつか

B 変な人たちって、どんな人

(D) ……じゃあいいや。○○、ばいばい

B え。ねえ、待って。整形した？

(D) うん

B めつちやきれいになったな

(D) (照れて) でしょう

B うん。モデルみたい。めつちやきれいになった

(D) 生まれ変わったんだ

B ……どうやって

(D) え？

B どうやって、生きてるの

(D) ……きれいになったから。あたし、すっごいモテるの。モテるからお金とか、住むところとか、男

B
の人たちが用意してくれて
でも、いま住むところないんでしょう？

電話が切れる。

トム
マリー見いひんかった？

B
……見いひんかった。わたしは、何にも、見なかった。

○シーン 8

音楽「乾杯の歌」。

風紀委員C、柵を壊して走り出す。

続いて、恋する人E・F、トムも脱走し、風紀委員A・Bが追いかける。
誰もいなくなった舞台に、マリーが登場する。

マリー
先生。あたしはやっぱり、ごめんなさいとは言えません。トムが好きです。トムがなんであたしの
こと好きになってくれたのかはわかりません。でも、あたしはトムが好きです。トムは全部知って
いるんです。あたしが働いている場所の近くで偶然会ったんです。それでも好きやって言ってくれ
たんです。

朝起きて、学校に行くのがいやでも、トムがいるから学校に行きました。移動教室とか、席がかわ

って近くに行けるのが嬉しかった。

あたしは、自分のことがぜんぜん好きじゃなかった。でもトムがあたしを見つけて、好きと喋ってくれたから、だからあたし、自分のこと少しはすごい子だって信じていいんだなって思うようになりました。

あの日はクリスマススイブでした。あたしは、彼に会いたくて。前の日にラインをしたんです。早く学校に行こうって。クリスマスだから一緒にすごそうって。その日はデートできなかったんです。あたしはバイトで。彼もバイトで。だから朝、だあれもない教室で、会えてうれしかった。おしやべりをして、キスをして。お互いいますごく好きだってことをもともとと伝えたくて、キスがだんだんピーー！に、なりました。

教室でしてしまったことはごめんなさい。だれも見てなければいいかと思ってた。先生に見られたことも、恥ずかしいし、気まずいし、ごめんなさいって思ってます。先生は本当に勉強が好きだから、その勉強する場所を、あたしたちが傷つけてしまったんだったってこともわかって、ごめんなさいって思っています。

でもあたしは、これらのことの全部は謝りません。トムが好きです。トムは、やさしいし、あたしを心配してくれるし、避妊してくれるし、いい彼氏なんです。いい彼氏やったんです。あたしはあのとき幸せだったことを謝れません。

恋する人 E、語りだす。

（上演時、恋する人 E 役の女性が自分で考えたモノロークです。自分なりに「恋とはなにか」を考え、作りかえて見てください。）

E

彼氏ができました。初めての彼氏です。付き合う前は、同じクラスで席が近い、ただ世間話するくらいの子でした。何故、好きになったのか私には分からないです。ただ話しかけやすくて、楽しく気が楽で、それだけしか感じないですが、好きなんです。

片思いしていた時、すごく楽しかったですもう周りの子に聞いて欲しくて仕方なかったし、付き合い合ったらどうなるのかなあっていう想像もしてたんです。告白は私からしました。返事は OK でした。凄く嬉しかったです。私で良いのかというくらい自分で信じられなかったです。だけど、付き合ってから見て、その子と上手く接することが出来なくて。前は自分から話に行けたけど、付き合い合ってから喋られないんです。私は恋人を作ったのが初めてなので、どうすれば良いか本当に分からなくて。このことを友達に相談したらもう好きじゃ無いんじゃないのって言われて、自分でもそうなのかなあって思ってきて。

今は春休みで、全然会えません。その子はホッケー部でグラウンドで練習している時があるんです。グラウンドを見たら私は無意識にその子を探しちゃうんです。で、見つけたら理由わからないけど嬉しくなります。嬉しくなる度にやっぱり好きのかもって心の中でホッとします。

つい最近十七歳になりました。これからどんな恋愛をしていくかわからないですが、わたしはその

子と自分たちの「十七歳の恋愛」をしていきたいです。

○シーン10

一月初旬。生徒指導室。

先生、机の近くに座っている。

トム、部屋の入り口に立っている。

トム どうしてマリーは退学になったんですか？

先生 ……

トム 先生

先生 ……

トム ぼくも退学にしてください

先生 なんで

トム ぼくもマリーと同じことをしました

先生 来年は受験生やろ。君は専門やっけ

トム 先生

先生 親御さんも心配されてたやないか

トム 先生！

先生 ……
トム ぼくもマリーと同じことをしました
先生 君は反省をした。君の反省文をたしかに読んだ
トム 適当にでっちあげただけだ
先生 ……。口の聞き方には気をつけろや
トム ……ぼくは知ってました
先生 ……何を
トム 知っていました。ぼくは、それで
先生 悩んでた？
トム ……
先生 そっか
トム ……
先生 大変やったな
トム ……もう終わったみたいと言わないでほしいです
先生 マリーは、学校を辞めたことを、君に言わなかったんやろ
トム 辞めさせられたんだ
先生 自主退学やで
トム 学校が好きでしたよ、マリーは
先生 そのわりに、遅刻も欠席も多かったな
トム マリーは学校が好きでした

先生 君がいたからやろ？

トム ……

先生 ……

トム マリーは

暗転。

幕

この作品の上演を希望される方は以下の連絡先にご連絡ください。

小松 陽介 | koma09683@yahoo.co.jp

オノマリコ | shukou2010@gmail.com

精華高校演劇部顧問(2018年現在)

趣向主催、劇作家